

2017 年度麻酔科ウィンターセミナー抄録

東京女子医科大学麻酔科学教室 土井健司

「心臓の解剖と wet lab から TEE へ(小児先天性心疾患編)」

麻酔科医にとって、wet lab の目的は、心臓の解剖を知って、経食道心エコー(TEE)の診断に役立てることにある。先天性心疾患の心臓手術においても、術中 TEE は、術前に指摘された病変の再確認、術前に指摘されていない病変の検出や追加で修復すべき病変の指摘、施行術式の評価、術式に付随して起こりうる合併症の予期と術後合併症の検索、循環管理のサポートに大きな役割を果たしている。先天性心疾患では、同一の疾患名であっても、解剖や血行動態は、幅広いスペクトラムを呈する特徴があり、麻酔管理と並行して、TEE で解剖や病態を一から評価するのは容易ではない。術前に解剖や術式を理解し、術中に観察できるであろう TEE のイメージを想像し、評価する項目をあらかじめ決めておくことと効率の良い TEE 評価が可能となる。後天性心疾患と同様に、先天性心疾患の解剖を把握するのに、wet lab はうってつけのシミュレーションツールとなる。とりわけ先天性心疾患では、心内奇形と周囲の解剖の位置関係が、術式や合併症の発生に大きく関係するので、wet lab では、一つの解剖を凝視するだけでなく、隣接する解剖にはどの解剖がどの位置関係に存在するか心臓を俯瞰して観察することに留意する。すると、発生しうる合併症や、合併症発生の有無を TEE で検出するときには、どの断層像を描出すべきかを、自然に決定することが可能になる。